

# 日本部活動学会 第7回大会のご案内

日時：2024年3月9日(土)

学術研究の報告 9:30~12:00

シンポジウム 13:10~16:00

情報交換会 18:00~20:00

参加費：会 員：1,000 円(学生会員は無料)

非会員：2,000 円(学生 1,000 円)

情報交換会[任意]：5,000 円(会員・非会員共通)

※参加費「プログラム・発表要旨集」誌代を含む

※参加費は当日会場にてお支払いください(現金のみ)

会場：関西大学堺キャンパス

〒590-8515 大阪府堺市堺区香ヶ丘町1丁目1番1号

南海電鉄高野線「浅香山」駅下車

[https://www.kansai-u.ac.jp/Fc\\_hw/](https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_hw/)

参加申込

お申し込みはこちらから

<https://www.kokuchpro.com/event/>

4f14d13029123068c1a8e88aca752a12/



後援：堺市教育委員会

## シンポジウム 部活動の存続と地域展開のダイアローグ

本年度から部活動の地域移行・地域展開の政策が進められていますが、予算や施設が不十分な地域では混乱が生じています。新たに示されたガイドラインでは、「地域クラブ」と「部活動」のそれぞれで、子どもの主体的な活動を求めています。このような状況をふまえ、今回のシンポジウムは、部活動を学校で実施する主張と、地域展開する主張の両方に耳を傾け、子どもにとって意味・意義のある活動を展望するために企画しました。

### ① 部活動の現状と課題

### 久保田治助

早稲田大学 教授

部活動の地域移行は、令和4年度に総合的なガイドラインが策定され、大きく展開をしている。一方、ここでの「地域」と呼ばれる受け皿とは何か。地域社会の教育機能である社会教育行政の理念と変遷を、資本主義社会の中で子供の学習保障として部活動を考える。



### ② 部活動は日本の強み

### 神谷 拓

関西大学 教授

OECDの報告書から、日本の部活動の国際的な評価について確認したい。そのうえで、今後の部活動において何を継承、発展させていくのか、そのためにはどのような地域連携のあり方が求められるのかについて、自身の研究成果に基づいて提言する。



### ③ 部活動の地域展開に挑む

### 長沼 豊

日本教育実践研究所

少子化が進む中で、スポーツや文化芸術活動を、やりたい生徒・教師はできる、そうでない生徒・教師はしなくてよい仕組みを創っていく必要がある。そのための選択肢の一つとして地域展開に挑んでいる地域の実態から何が見えてくるか、報告する。

